

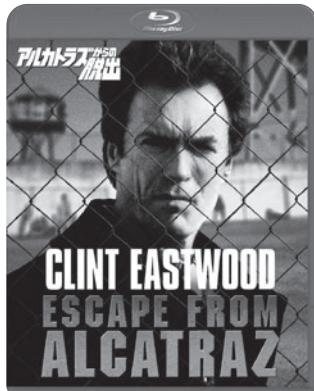
『アルカトラズからの脱出』

1979年／アメリカ／ドン・シーゲル監督作品

再び刑務所の島になる前に

会員 福井 達也 (48期)

アルカトラズからの脱出
Blu-ray: 2,619円／DVD:
1,572円(税込み)
発売・販売元: 株式会社ハビ
ネット・メディアマーケティング
© 1979 by Paramount
Pictures Corporation. All
Rights Reserved.
※商品情報は記事公開時点
のものです。最新の内容を
ご確認ください。



昨年6月、トランプ大統領がアルカトラズ島の刑務所を再開する指示を出したという新聞記事を目にした。2000年私はこの島を訪れた。しかも、同期同クラスであった本誌の現編集長と一緒に。

アルカトラズ島はサンフランシスコ湾に浮かぶ小さな島で、観光客が行き交う賑やかな海岸からフェリーで15分ほど。灯台や砲台の設置場所から南北戦争前後には監獄としても利用されるようになり、有名どころではアル・カポネも収容された。しかし、島の収容所であることから潮風による建物の老朽化が激しく、食料や水を船で運ばなければならないことからコストが他の施設の何倍もかかり1963年に閉鎖された。以降はサンフランシスコの観光スポットの一つとなっている。一部収容棟が保存されており実際の独房にも入ることができる。今の島の状況を知るのであれば、元軍人の反乱分子が島を占拠した「ザ・ロック」が適当であろう。

本作の主演はご存じクリント・イーストウッド。彼に対するイメージや代表作は年代によって様々であろう。「バック・トゥ・ザ・フューチャー3」の中で、西部開拓時代名前を聞かれたマーティ（マイケル・J・フォックス）は自身をクリント・イーストウッドと名乗った。1960年代、クリント・イーストウッドは「荒野の用心棒」「夕陽のガンマン」に代表される西部劇の主人公であった。だが、私にとっての彼は「ダーティハリー」である。その後の名監督や田舎町の市長のイメージは失礼ながらあまり無い。

本作の監督はドン・シーゲル。1960年代後半に2人は知り合い、何本かの映画製作を経て、1972年日本

公開の「ダーティハリー」に至る。「ダーティハリー」シリーズは1988年公開の5作目まで続くが、イーストウッドは20数年間銃を撃ち続けてきたことになる。本作は、最初の「ダーティハリー」以来8年ぶりのシーゲルとイーストウッドの作品である。しかも「ダーティハリー」シリーズが続いている中での囚人の役であり、もちろん彼が銃を持つことはない。役柄は正反対であるもののあまり笑わないのは両作品に共通している。場所はともにサンフランシスコ。苦虫を噛み潰したような表情に山田康雄さんの吹き替えの声が何とも言えずしきりくる。

本作には、「ショーシャンクの空に」同様、刑務所長、刑務官、リーダー格の受刑者、高齢の受刑者が登場するが（というより「ショーシャンクの空に」が本作を参考にしたというべきか）、刑務所長が私腹を肥やすことはないし、刑務官が無慈悲に受刑者を銃殺することもない。霧がかかったような薄暗いサンフランシスコの空気の中、淡々と受刑者の生活が描かれ、脱獄の準備が続き実行に至る。作品を見終わった時の清々しさなど皆無にもかかわらず、40年以上経った今でも心に残る作品の一つである。

その後、トランプ大統領から刑務所再開の具体的な指示が出されたとは報じられておらず、また、施設の管理維持、運営の大変さからすれば、アルカトラズ島が再び刑務所の島になる可能性は極めて低いのではないかと思うが、サンフランシスコに行く予定がある方は、是非本作を観たうえでアルカトラズ島を訪れていただきたい。